

【学力向上フロンティアスクール中間報告書】

都道府県名	山形県
-------	-----

学校の概要

学 校 名	上山市立南中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学 級 数	4	4	5	1	14	27
生 徒 数	145	143	174	1	463	

研究の概要

1、研究主題

自ら意欲的に学び続ける生徒の育成
～確かな学力を身につけさせる教科指導の工夫～

2、研究内容と方法

(1)実施学年・教科

全学年必修教科（個に応じた指導を充実させ、生徒一人一人が目的意識をもって学習できる授業の日常化をめざすため。）

全学年選択教科（自己の興味・関心，疑問を追求し，教科の知識や技能を高めようとする意欲を育て発展的・補足的な学力の向上を図るため。）

(2)年次ごとの計画

平成15年度

テーマ（研究主題）：自ら意欲的に学び続ける生徒の育成
～確かな学力を身につけさせる教科指導の工夫～

めざす生徒像

- ・学ぶことへのやる気、意欲のある生徒
- ・問題を見つけ、それを解決していくことのできる生徒
- ・自分で思考、判断、表現することのできる生徒
- ・習得した知識や技能を活用することのできる生徒

研究の仮説

生徒一人一人の実態に即し，学習意欲を高めたり，基礎・基本の定着を図る教材を開発し指導過程に組み込むことで，生徒の持つ「確かな学力」が向上するであろう。

個に応じたきめ細かな指導方法や学習形態を展開することで，生徒の持つ「確かな学力」が向上するであろう。

評価の方法を工夫することで指導方法の改善がなされ，生徒の持つ「確かな学力」が向上するであろう。

研究の内容・方法

教科指導の重点

- ・「研究主題」「めざす生徒像」などを受けて，時間割の中に教科部会を設定し，めざす授業の実現のために指導方法等を研究する。以下のことを重点に置いて授業改善に取り組む。

- ・基礎・基本の徹底を柱に据えた教材開発による確かな学力と学ぶ力の育成
- ・ティームティーチングの工夫による個に応じたきめ細かな指導の推進
- ・選択教科の充実を図ることによる発展的な学習や補足的な学習の推進

- ・「基礎・基本の徹底」「学ぶ力の育成」を各教科の共通主題としながらも，教科ごとに重点を設定して取り組む。

研究内容	共通主題	各教科の重点		
		教材開発	個に応じた指導体制	
			T T	選択教科
教科				
国語 社会 数学 理科 音楽 美術 保健体育 技術・家庭 英語 特殊教育	基礎・基本の徹底 学ぶ力の育成			

主題追求のための授業研究会等の実践

- ・ 年一回の全校研究会（11月27日，外部講師の招聘）
- ・ 教科ごとの授業研究会の実施
- ・ 校内研修会（評価，個に応じた指導，習熟度別学習等に関すること）

教科部会における研修～主題追求のための日常の授業実践

- ・ 研究仮説について，次のような視点で教科部会で話し合い，実践を積み重ねていくことで，仮説を検証していく。

仮説(1)教材の開発について

- ・ 学ぶ意欲を高める教材
- ・ 補充的発展的な学習につながる教材
- ・ 基礎・基本の定着を図る教材
- ・ 習熟の程度，興味関心に応じた教材
- ・ 地域の特色を生かした教材

仮説(2)指導方法の工夫について

- ・ 基礎・基本の定着を図る学習指導
- ・ 個に応じた発展的，補充的な学習指導
- ・ 少人数，小集団による学習指導
- ・ 問題解決の過程を大切に学習指導

仮説(3)評価の工夫について

- ・ 生徒一人一人のよさを発見できる評価
- ・ 目標に準拠した評価
- ・ 生徒による自己評価や相互評価
- ・ より客観的な評価

・ 諸テストの実施と結果分析

標準学力検査（4月実施）と年4回の定期テストの分析

・ 選択教科の内容の吟味

通年選択，集中選択（7月と11月、計35時間）の内容・目標と個に応じた指導

各学年部会における取り組み

- ・ 各教科で開発した教材を効果的に生かす朝学習，家庭学習，長期休業課題の工夫
- ・ 集中選択の教科・コース開設と内容の吟味

平成 16 年度

テーマ (研究主題) : 自ら意欲的に学び続ける生徒の育成
~ 確かな学力を身につけさせる教科指導の工夫 ~

研究仮説 研究の内容・方法

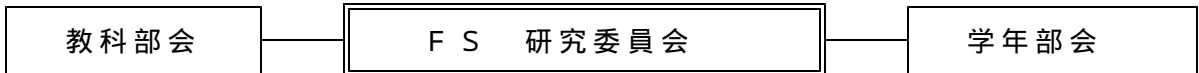
平成 15 年度の研究を継続し、より深化・発展させる。特に、「評価」について研究を深める。

教科研究会 (7 月、市内中学校と学区小学校に案内)

公開授業研究会の実施 (11 月、必修教科と選択教科の公開)

(3) 研究推進体制

研究委員会を中心にして、教科部会と学年部会と連携して進めていく。



(教材開発, 指導法, 評価の改善)

(全体構想, 実態把握)

(集中選択の計画)

平成 15 年度の研究の成果及び今後の課題

1、研究の成果

(1) 共通の主題

- ・ 個々の生徒の立場になって考え、教材開発や課題の設定、指導形態の工夫が行われ、生徒の基礎的・基本的な学力の向上、学ぶ力の育成につながった。

(2) 各教科の重点

- ・ 各教科で「めざす生徒像」「付けたい力」を具体的に設定したことにより、めざす生徒の姿を明確に意識した授業を心がけるようになってきた。
- ・ 各教科で作成した教材 (国語科「漢字テキスト・南中漢字道場」、社会科「基本用語のドリル集、< 公民分野 >」、英語科「南中重要語句集」) で、ドリルによる反復学習により、基本的な事項の知識理解度が高まりつつある。
- ・ T T や選択教科における指導において、各教科で提示した資料に基づき、個に応じた指導体制としての機能を明確にして指導に当たることができるようになり、このような指導形態に対する生徒の期待に応えることができるようになった。
- ・ 2 年数学においては、一斉指導と T T での指導とでの学力差 (小テストの結果) について検証を試みた。分析は次の通りである。

各小テストの時間は 10 分間。

一斉は一人の指導者のみ (4 学級とも同一の指導者) 指導。T T は二人で個別指導。(ア・イ組は同じ指導者。ウ・エ組は一人がア・イ組と同じ、一人が違う指導者。)

1 回 ~ 3 回のテストともレベル (問題の難易度) は同じ。

ア・イ・ウ組は学力標準検査の平均点がほぼ同値で、エ組は 2 ~ 3 点低い。ア・イ・エ組は学級内での学力差が大きく、ウ組は差が小さい。ア組とイ組は似かよった集団なので、同じ結果になるか、ア・イ組は T T での授業を先に行い、比較してみた。また、学級の散らばりが小さいウ組と大きいエ組は、一斉での授業を先に行い比較してみた。

	ア組	イ組	ウ組	エ組
1 回目	58.2%	58.6%	61.2%	52.6%
テスト	T T +14.1	T T +14.7	一斉 +13.3	一斉 +8.9
2 回目	72.3%	73.3%	74.5%	61.5%
テスト	一斉 +12.8	一斉 +12.1	T T +10.0	T T +13.4
3 回目	85.1%	85.4%	84.5%	74.9%
テスト				

全体的には、一斉指導よりも T T での指導の方が効果があり、学力の差が大きい学級ほど T T は効果的であった。

- ・ 選択教科については、教科に関わる生徒の実態や興味関心など、多様な個の生徒の状況に応じた指導をすることができ、生徒の学習の様子や感想などからも意欲を感じることができた。

(3)各学年の取り組み

- ・ 各教科で明確にした基礎・基本をもとに、学年体制で朝学習・家庭学習・長期休業中の課題の指導に当たるとともに、ノート作成指導など学ぶ力の向上の手立てを推進することができた。
- ・ 選択教科（集中選択）においては、各学年団がチームを組み、確かな学力を育むため、個に応じた指導を展開したことにより、生徒たちは明確化された目標に向かって意欲的に取り組み、自らの伸びを実感できた。

2、今後の課題

- (1)互いに授業を参観し合ったり、各教科で作成した教材から学び合ったりする日常化を図っていくことが肝要である。教科部会の持ち方が今後益々重要になってくると思われる。教科部会を単なる事務連絡の場から具体的な作業を通じた研修の場にする必要を一層推進する必要がある。
- (2)基礎・基本の徹底、学ぶ意欲の向上を図るための一つとして、「歴史の要点30」（社会科）や「対話文50」（英語科）のような形で、3学年を貫く各教科の「基礎・基本」の体系を具体的に生徒に提示していくことが必要である。
- (3)T Tの授業形態でより効果的な指導を行うために、指導者同士の打ち合わせの時間を確保する必要がある。
- (4)選択教科においては、学習指導要領を踏まえ、付けたい力を更に明確にした課題設定と自作教材で、学力の定着と学び方の育成を図っていきたい。特に学習課題の吟味が必要である。「習熟度の開きに対応した課題」であること、「達成を確認することができる課題」であることを意識して課題を設定したい。
- (5)「関心・意欲・態度」についての評価が難しかった。テスト等での評価は難しい。どう客観的に評価すればよいのかを実践を通して検討していく必要がある。また、各教科の評価規準及び基準の設定について検討していかなばならない。

学力等把握のための学校としての取り組み

- ・ 教研式全国標準診断的学力検査（NRT）の実施（各学年、年1回）
- ・ 年4回の校内定期テスト、各教科の単元テスト・小テストの実施
- ・ 集中選択アンケート

フロンティアスクールとしての取り組み

- ・ 平成16年度11月末に公開授業研究会の実施
- ・ 研究紀要を3月に発行し、市内全中学校と学区小学校に配布する予定

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- | | | | | |
|----------------------|--------------|-------------|------|---------|
| 【新規校・継続校】 | レ 15年度からの新規校 | 1 4年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | 3学級以下 | 4～6学級 | | |
| | 7～9学級 | 10～12学級 | | |
| | レ 13～15学級 | 16学級以上 | | |
| 【指導体制】 | レ 少人数指導 | レ T・Tによる指導 | | |
| | その他 | | | |
| 【研究教科】 | レ 国語 | レ 社会 | レ 数学 | レ 理科 |
| | レ 外国語 | レ 音楽 | レ 美術 | レ 技術・家庭 |
| | レ 保健体育 | レ その他 | | |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | | レ 有 | 無 | |